全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議 第3回勉強会　in　ぎふ

平成 20 年 10 月 2～3 日、「全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議　第 3 回　勉強会」が岐阜市で開催されました。

直前まで台風の影響を気にしましたが、皆様の日頃の心がけのおかげで、晴天で何事も無く当初予定のとおり勉強会は終了いたしました。

今回の勉強会には、26 社、45 名の方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

（H20.9 時点の会員数：68 社）

《第１日目》

第１日目は、国際的に有名な建築家・安藤忠雄氏設計の長良川国際会議場にて勉強会が行われました。

はじめに、「㈱まちづくりとやま」の廣瀬会長から「全国的にも有名な富山市でも厳しい状況にある。今日の機会に一つでも、二つでも、地元にいい成果を持ち帰っていただきたい」とのご挨拶を頂きました。

次に開催地の挨拶として、英岐阜市副市長より、「岐阜の歴史・文化・自然の良さに触れて欲しい」とのご挨拶を頂きました。

続いて来賓として、国土交通省都市･地域整備局　まちづくり推進課　澁谷企画専門官より、「まちづくり会社の設立・活動の手引きＱ＆Ａ」（国交省ＨＰに掲載）に記載されている人・モノ・カネに対して、先進事例と絡めて、議論することが望ましいとのご挨拶を頂きました。

㈱まちづくり松山の事例発表後、「資金面の強化」･「人材の確保」･「まちづくり活動の視点」の３テーマについて４グループで討議を行い、（財）岐阜市にぎわいまち公社の丸山理事長の司会のもと、討議結果の発表が行われ、最後に国土交通省の取り組みについて説明があり、１日目は終了しました。

■事例発表

「収益事業による資金面の強化」と題して、「㈱まちづくり松山」日野代表取締役より映像情報発信事業についての取り組みをご紹介いただきました。商店街マネージャーの常駐により、一体的な組織的機能（振興組合、ＰＴＡ、ボランティア等）を確立することができたのが、ポイントになったとのことでした。

また、道路空間を使った収益事業を松山市との協働により収益事業として取り込めたことが、自主財源の確保となり、今に至っているとのことでした。

今後、中心部だけでなく、周辺部の商店街やＪＲの再開発など、幅広い面積を対象とするまちづくりが必要となってきたため、鹿児島の天文館を参考に進めていくとのことでした。

■グループ討議

各地域が抱える問題・課題の解決に向けて、テーマ別に少人数のグループを組み討議を行いました。

◇各グループの討議概要

＜Ａグループ/テーマ：資金面の強化＞

・まちづくり会社は、地域ごとの　特性があるので、一律に収益を前提とするのはいかがなものか。
・安定的な収益確保が必要。
・固定費（人件費）をどうするのか。

＜Ｂグループ/テーマ：人材の確保＞

・人材確保の前提としての収益力。（プロパーのスタッフ）
・タウンマネジメントにおける「地域」と重要性。
・行政を始めとする関係機関との連携。
・専門分野のアドバイザー等人的ネットワークの活用

＜Ｃグループ/テーマ：まちづくり活動の視点＞

・世代間、既存組織のネットワーク構築が重要。
・問題意識の共有化が必要。
・空店舗対策として、家賃を下げる等のお金の支援とともに、精神的なサポート体制も重要。

＜Ｄグループ/テーマ：まちづくり活動の視点＞

・高齢者が多く、後ろ向きの意見に対してどのように元気づけるか。
・まち会社の業務が多方面にわたるので、自治体との役割分担を明確にすべき。
・足し算より掛け算にしてまちづくりを行いたい。

◇まとめ

討議による結論は出せないものの、「うまい話はなかなかないが、悩みをだしあい、情報交流することがよい」という丸山理事長の一言が印象的でした。

■懇親会

岐阜の風物詩である鵜飼を鑑賞しながら、会員の親睦を深めました。

古典漁法を今に伝える長良川の鵜飼の歴史は深く、約 1300 年前までさかのぼります。

《第２日目》

第２日目は、柳ヶ瀬あい愛ステーションにて、(財)岐阜市にぎわいまち公社から「まちづくりの取り組み」の紹介の後、柳ヶ瀬、岐阜シティ・タワー43 等岐阜市中心市街地の視察を行いました。

当日の模様は、同日夜８時 45 分からＮＨＫニュース東海版でも放送されました。

また、次回勉強会開催地の「神戸・新長田中心市街地活性化協議会」の東事務局長よりご挨拶がありました。

■「まちづくりの取り組み」

（財）岐阜市にぎわいまち公社の丸山理事長のご挨拶の後、遠藤まちづくり推進課長より中心市街地の現状、中心市街地活性化基本計画、にぎわいまち公社の業務等について説明がありました。

昭和 35 年以降一貫した人口減少、商店街の衰退、駅前繊維問屋街の空洞化、大規模商業施設の郊外立地な

ど中心市街地を取り巻く課題は多いが、市街地再開発事業による整備、柳ヶ瀬地区商店街活性化提案事業・レンガ通りや日ノ出町通りの景観統一整備事業、コミュニティーバス等による中心市街地へのアクセス向上等に取り組んでいる等の大変参考となるお話しを伺うことができました。

■岐阜市中心市街地現地視察

◇柳ヶ瀬あい愛ステーション

商店街のイベント情報やお店の情報、岐阜市の観光情報などをご案内するほか、買い物途中気軽にお立ち寄りいただける休憩スペースとして使用できます。

◇美殿町商店街

石畳の道路とレンガ歩道、街のシンボルとなっているガス灯からもれる柔らかな明かり。老舗のたい焼き、漬物、履物、陶器店など個性的なお店が集まり「この商店街の店舗は専門店です」と商店街の鷲見鉄郎さんは語っていました。

◇日ノ出町商店街

旧長崎屋の撤退後、歩行者の通行量が減少しており、柳ヶ瀬の回遊性を高め、来訪者が楽しく買い物ができる空間としてアーケードの改築を予定しています。

また、来店者がやすらぎを感じられるよう店舗の看板を木製にしています。「今後は、近くにある高島屋百貨店との共存共栄を考えて行かなければならない」と商店街の正村周一さんは語っていました。

◇玉宮町商店街

新しく建物を建築する場合は、道路の間に 1.5m程度の空地を設けるようまちづくり協定を締結しています。現在はまだ古い店舗と新しい店舗が混在していて壁面線は揃っていませんが、「それがかえって人を呼ぶ魅力につながっている」と商店街の玉木雅則さんは語っていました。

大変エネルギッシュな方で、ご自身で「玉宮新聞」という商店街の情報発信紙を発行しており、この勉強会の開催にあわせて臨時号を発行してくださいました。

◇路面電車

金公園に展示してある路面電車。

路面電車は平成 17 年３月末まで、市民の足の中心的存在でした。

◇岐阜シティ・タワー43

岐阜駅西地区第一種市街地再開発事業として、都心居住住宅、福祉・医療施設、放送局、商業施設を一体的に整備した 43 階建、高さ 163mの再開発ビルです。平成 19 年 10 月にグランドオープンし、岐阜の新しいランドマークとなっています。

上記は、現在、岐阜駅北口駅前広場整備事業として整備中の駅前広場です。（入場無料の展望室より望む）

■さいごに

今回、開催地としての準備、事例発表等対応していただいた方々には、ご多用のところご準備いただくともに、貴重な資料をご提供いただき、誠にありがとうございました。

次回は、平成 21 年２月 19、20 日、神戸での開催を予定しておりますので、今回と同様多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議事務局
独立行政法人都市再生機構、財団法人民間都市開発推進機構
社団法人全国市街地再開発協会、財団法人区画整理促進機構
作成/平成 20 年 10 月